

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																										
KCS大分情報専門学校		昭和60年4月30日	塚井 常行		〒870-0037 大分県大分市東春日町17-19 (電話) 097-537-3911																										
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																										
学校法人 電子開発学園九州		昭和57年1月18日	松尾 泰		〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目4-1 (電話) 093-531-9131																										
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																									
工業	工業専門課程	情報マルチメディア専門科			平成17年文部科学省 告示第32号	-																									
学科の目的	当学科は、企業が求める実践的かつ専門的な知識・スキルを有する高度ICT人材の育成を目的として、情報システムの設計・開発を行うための基礎力からより高度な知識・スキルまで、企業等との連携により専門的かつ実践的な演習・実習を通して学習する。																														
認定年月日	平成 26 年 3 月 31 日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
	3年 昼間							3,360時間	2,130時間	380時間	850時間	0時間	0時間																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
120人		171人	0人	6人	0人	6人																									
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ・筆記試験および演習評価 ・成績評価(秀・優・良・可・不可) ・当該年次の所定の科目が認定され、かつ、当該年次の規定出席日数を満たしていること。																										
長期休み	■学年始め: 4月1日 ■夏季: 7月31日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月5日 ■学年末: 3月1日～3月20日			卒業・進級条件																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・スクールカウンセラーによる面談 ・メール等による授業フォロー ・ハラスメント相談、家庭訪問 など			課外活動	■課外活動の種類 ・部活動、ボランティア活動、学園祭実行委員会 等 ■サークル活動: 有																										
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) システム開発会社、システムインテグレータなど			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																										
	■就職指導内容 個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>42人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>情報処理安全確保支援士</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>データベーススペシャリスト</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>情報セキュリティマネジメント</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者	③	42人	20人	応用情報技術者	③	21人	10人	情報処理安全確保支援士	③	10人	4人	データベーススペシャリスト	③	4人	2人	情報セキュリティマネジメント	③	6人	4人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																										
	基本情報技術者	③	42人		20人																										
応用情報技術者	③	21人	10人																												
情報処理安全確保支援士	③	10人	4人																												
データベーススペシャリスト	③	4人	2人																												
情報セキュリティマネジメント	③	6人	4人																												
■卒業者数 41 人 ■就職希望者数 40 人 ■就職者数 40 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 97.6 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																												
■その他 (令和2 年度卒業生に関する 令和3年5月1日 時点の情報)			■自由記述欄																												
中途退学の現状	■中途退学者 6 名 令和2年5月1日時点において、在学者155名(令和2年4月入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者149名(令和3年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的問題、社会的不適応など			■中退率	3.8 %																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 学費一部減免制度: 指定校特待生入学、AO入学、KCS奨学生、資格取得者特典、同窓子弟特典 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																														
当該学科のホームページURL	https://www.kcsoita.ac.jp/course																														

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校を含む専修学校による電子開発学園グループ(以下、学園と称す)では、教育課程の編成を目的とした「カリキュラム検討委員会」を設置し、カリキュラムを編成する体系図、授業科目の設定を専門学校グループ全体で共有する。学園の教育理念である「IT人材育成に関する国策の推進役を担うとともに、IT企業が求める実践的なIT人材を育成することにより、情報化社会の進展に寄与する」をもとに、IT業界の最新動向を調査・研究するとともに、国策や企業ニーズに対応するため、委員会への有識者・企業の委員参加を求め、意見の収集・反映を行っていく。

また、委員会を毎年度設置することにより、前年度に実施したカリキュラムの問題点・課題等を把握し、改善のうえで翌年度のカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

カリキュラム検討委員会では、以下の事項を審議する。

- 1) 教育課程の編成および実施に関すること。
- 2) 教育計画および授業時間の編成に関すること。
- 3) 教材の確保、開発に関すること。

委員会の審議結果を基に、教務部長が中心となってカリキュラムの見直しを行い、翌年度のカリキュラムに反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
高 島 宗 正	株式会社ユビキタステクノロジー 業務推進室長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
伊 藤 英 二	株式会社ATTS 開発部次長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
渡 辺 律 子	(公財)ハイパーネットワーク社会研究所 副所長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	①
大 谷 謙 二	KCS大分情報専門学校 教務部長		
野 田 雅 裕	KCS大分情報専門学校 3学年主任		
山 田 雅 巳	KCS大分情報専門学校 2学年主任		
矢 野 伸 一	KCS大分情報専門学校 1学年主任		
伊 東 広 道	KCS大分情報専門学校 進路指導部		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(2月)

(開催日時)

第1回 令和3年 2月19日 17:00～18:00

第2回 令和3年 2月25日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・「現行と同様に、情報系カリキュラムの到達目標として情報処理技術者試験の取得をめざしてもらいたい。また、同時に社会人基礎力の養成もお願いしたい」との意見を受け、資格取得については現行カリキュラムで対応している、社会人基礎力は各科目の授業の中に組み込んでおこなっており、さらなる改善を検討していく。

・「令和2年度からプログラミング教育が小中学校で開始され、県内の高等学校も情報教育に力を入れてきている。これからは、小中高校で情報の気を学んだ生徒が専門学校に入学してくるため、そのような生徒に対応したカリキュラムを設置することが必要である。」との意見を受け、本学園も姉妹校全体の教育責任者会議において、これからはどのような教育を実施していくべきかを検討している。基礎段階の底上げに伴う実践力・応用力の養成目標の見直し、AI等の先端技術を活用できるためのカリキュラム改訂などを、早急を実施していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

業界での一定数以上のシェアを持ち、業界標準に近いソフトウェア・アプリケーションのベンダー（開発メーカー）と、そこが提供する教育プログラムによる連携を実施する。それにより業界での利用価値の高い知識と実践的かつ専門的なスキルを学生に修得させる。

さらに、業界で知名度のある資格試験団体とも連携することで、より実践的なスキル評価を実施することができ、また学生の就職活動においても有益なスキル証明が入手可能となる。

そのうえで、実際にシステム開発を業務としている企業と連携し、授業の実施・評価を企業により行うことで、実践的な知識とスキルの修得が可能となる。また業界の最新情報や実際の事例の解説などを行うことで、将来的に就職する業界についての学生の興味を喚起させ意欲を向上させる。

これらの内容を盛り込んだ協定書・契約書を企業等と締結し、実習・演習を行い、システム開発における実践的かつ専門的な能力を育成する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業の技術者が参画して、教材作成・選定、科目の実施方法、評価方法の設計を行う。

実際の演習・実習は、企業からの講師派遣により実施し、学生へ直接指導する。

演習・実習終了時には、科目設計時に設定した評価方法を踏まえ、企業側講師と学校側講師が連携して学生の評価を行う。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
実践システム開発演習	システム開発の上流工程（要件定義～設計まで）をグループワーク形式で実践する。	株式会社エスシーシー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

規程に基づき年間の研修計画を立てて、次の方針で教員を外部機関の研修に参加させる。

・専攻分野（システム開発分野）に関しては、学園を含む「eDCグループ（学園、株式会社エスシーシー、宇宙技術開発株式会社、北海道情報技術研究所）」合同のPINE-NET企業内教育講座を受講させることにより、システム開発業務で必要な知識（最新技術、業界動向等）、技術及び技能を修得・向上させる。

・授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上については、学園が独自に企画した研修（企業等有識者が講師）又は外部の必要な研修を教職員に受講させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「PDCAサイクル実践講座」（連携企業等：株式会社アイ・イーシー）

期間：令和2年8月27日（木） 対象：全教員

内容：PDCAサイクルを活用したソフトウェア作成業務の改善と組織的成果の向上について学習する

研修名「ブロックチェーンの基礎と業務への応用」（連携企業等：ビジネス・ブレイクスルー大学）

期間：令和3年1月18日（月）～19日（火） 対象：全教員

内容：ビットコインなどの暗号通貨に利用されているブロックチェーン技術の基礎と、業務への応用について学習する。

研修名「VC#によるアプリケーション開発方法」（連携企業等：有限会社メディアプラネット）

期間：令和3年2月17日（水） 対象：全教員

内容：Visual Studio開発環境の導入からGUIアプリケーションの作成について学習する。

研修名「フィンテック」（連携企業等：株式会社アイ・イーシー）

期間：令和3年3月11日（木）～12日（金） 対象：全教員

内容：フィンテックのサービスや仕組みについて理解し、金融システム構築等での利用法について学習する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「アサーティブ・コミュニケーション研修」（連携企業等：株式会社エスシーシー）
期間：令和2年9月28日(月)～29日(火)、12月23日(水)～24日(木) 対象：中堅教員
内容：相手を大切にし、自分を大切にすること、良好な人間関係構築のための基本行動を学習する

研修名「ビジネスパーソン・アドバンス研修」（連携企業等：株式会社ジェック）
期間：令和2年11月24日(火)～25日(水) 対象：中堅教員
内容：仕事に対する当事者意識を引き上げ、周囲に働きかける手法を学び、成果を出せる人材を育成する方法を学習する。

研修名「ファシリテーション講座」（連携企業等：株式会社アイ・イーシー）
期間：令和3年1月20日(水) 対象：全教員
内容：ファシリテーションの効果を理解し、必要なスキルを把握することで、学生指導に活用する

研修名「在宅勤務に求められる成果の出し方、見せ方研修」（連携企業等：株式会社インソース）
期間：令和3年1月27日(水)～28日(木) 対象：全教員
内容：コロナ禍以降のニューノーマルの時代に求められる在宅勤務での働き方、成果の出し方を学習する。

研修名「SDGsの趣旨と効果の把握、活用事例とアプローチ方法の習得」（連携企業等：HRコンサルティング株式会社）
期間：令和3年2月18日(木)～19日(金) 対象：全教員
内容：SDGsの概要から実践例について理解し、目標達成のための活動について学習する。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「開発技術eラーニング」（連携企業等：株式会社シェアウィズ）
期間：令和3年7月～令和4年3月 対象：全教員
内容：プログラミング、セキュリティ及びネットワーク構築技術を学習する

研修名「クラウド開発技術研修」（連携企業等：株式会社エスシーシー）
期間：令和3年度下期 対象：全教員
内容：クラウド開発の手法を学習し、実際に構築する

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「レジリエンス研修」（連携企業等：株式会社エスシーシー）
期間：令和3年7月、9月 対象：若手教員
内容：レジリエンス力（「困難を乗り越える力」と「目標に希望を持つ力」）を学習し、学生指導に活用する

研修名「アサーティブ・コミュニケーション研修」（連携企業等：株式会社エスシーシー）
期間：令和3年9月、令和4年1月 対象：中堅教員
内容：相手を大切にし、自分を大切にすること、良好な人間関係構築のための基本行動を学習する

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、学校関係者として卒業生、その他、企業および学識経験者から構成される委員が参画した学校関係者評価委員会を設置して、自己評価をもとに、教育理念と目的に沿った人材育成がなされ、かつ、健全な学校運営(学生募集～教育～就職)が行われているか評価し、評価結果を教育活動その他の学校運営の改善等にいかし、学校運営の客観性と透明性を高めることを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念、目的、育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導體制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

文部科学省発行「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて実施した自己評価結果をもとに、学校評価委員会を開催した。委員会では、参加委員からの指摘・評価事項を取りまとめるとともに、それらを次年度の教育活動その他の学校運営の改善等に活用することを組織として決定した。

・「2020年のプログラミング教育開始に向けた教諭対象の講座を、社会貢献・地域貢献として開催してほしい」との意見を活かし、教諭向けのプログラミング講座、アルゴリズム教育講座を実施した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
長谷川 清	私立大分国際情報高等学校 教頭	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	有識者
藤原 伸司	株式会社大分毎日広告社 相談役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業委員
渡辺 律子	(公財)ハイパーネットワーク社会研究所 副所長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	有識者
伊藤 英二	株式会社ATTS 開発部次長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業委員
那賀 利之	有限会社アサリスports	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 令和2年10月22日公表)

URL: <https://www.kcsoita.ac.jp/schoolinfo>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学園に対して連携を行う企業、関係者に対し、当学園に対する深い理解を得てもらうことで連携を円滑にすることができ、それにより連携を進め、活動の充実や教育内容の向上を図る必要がある。

そのため、学園は連携する企業に対し、教育目標や計画などの方針をはじめ、教育対象となる生徒・カリキュラム、教育環境や経営情報などの情報を公開し、もって企業との相互理解を深める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要(校長名・所在地・連絡先・沿革) 学校の教育理念・特色
(2)各学科等の教育	定員数、カリキュラム、卒業・進級要件、成績評価の基準 資格取得実績、主な就職先・就職率
(3)教職員	教職員数、組織図
(4)キャリア教育・実践的職業教育	演習・実習への企業との連携方針、就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	教育環境、学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援体制、スクールカウンセラー
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金
(8)学校の財務	資金収支計算書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	-
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <https://www.kcsoita.ac.jp/schoolinfo>

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報マルチメディア専門科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ITの職業と情報倫理	ITの職業の紹介、セキュリティリテラシーを学習する	1前	30		○			○		○		
○			ITストラテジ	ITの戦略、法務について学習する	1前	30		○			○		○		
○			基礎理論	コンピュータで扱う数値表現や論理演算の基本法則を学習する	1前	30		○			○		○		
○			ハードウェア	コンピュータを利用する際に必要となるハードウェアに関する基礎知識を学習する	1前	30		○			○		○		
○			ソフトウェア	コンピュータを利用する際に必要となるソフトウェアやオペレーティングシステムに関する基礎知識を学習する	1前	30		○			○		○		
○			データ構造とプログラミング	アルゴリズムについてプログラム言語での表現法、実際の動作を学習する	1前	30		○	△		○		○		
○			アルゴリズム	代表的なアルゴリズムと、その考え方について学習する	1前	60		△	○		○		○		
○			ネットワークとセキュリティ	通信ネットワークの構成要素、セキュリティについての考え方について学習する	1前	30		○			○		○		
○			システム開発の基礎	システム開発の基礎的な知識と技術について学習する	1前	30		○	△		○		○		
○			ビジネスソフト活用1	表計算ソフトの基本操作およびビジネス社会で必要となる利用技術を学習する	1前	30				○	○		○		
○			データベースの基礎	データベースの構成要素、運用と構築の基礎について学習する	1前	30		○	△		○		○		

○		ヒューマンスキル	多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を、演習を行いながら社会人としての素養を身につける	1 前	30	○	△	○	○				
	○	J A V A	JAVA言語の基礎的な概要を理解して、初歩的なアプリケーションを作成できるようにする	1 後	90	△		○	○	○			
	○	ネットワーク 応用 1	ネットワーク技術とプロトコルを具体的に学習し、さらにネットワークメディアとトポロジーについても学習する	1 後	30	○	△	○	○				
	○	S Q L 基礎	SQLについて、SELECT文を中心に基礎から応用的な知識と技術までを学習する	1 後	30	○	△	○	○				
	○	S E A / J 基礎	情報処理技術者として必要なセキュリティ分野の基礎となる知識を学習する	1 後	60	○	△	○	○				
	○	H T M L と C S S	ホームページを作成する技術として、H T M L、C S Sの基礎を学習する	1 後	30	△		○	○	○			
	○	ビジネスソフト 活用 2	実習科目として、ワープロソフトを通してコンピュータの基礎、Windowsの基礎も含めて学習する	1 後	30			○	○	○			
	○	特別講座 I	各種検定試験の受験対策を行なう	1 通	480	○		○	○				
	○	C言語	C言語の基礎的な概要を理解して、初歩的なアプリケーションを作成できるようにする	1 後	30	△		○	○	○			
	○	デザイン理論	デザイン的な要素が引き起こす効果について、講義と実例を通して基礎的な知識と技法を学習する	1 後	30	○		△	○	○			
	○	デザイン実践	色彩、レイアウトの基本など、コンテンツ作成時の素材作りができるような知識を学習する	1 後	60	○		△	○	○			
	○	ゲームプラン ニング	ゲーム開発における企画書を作成するため、アイデアの抽出、整理、文書化などの技法を学習する	1 後	30	○			○	○			
	○	キャラクター デザイン	基礎的な知識や技法について講義で習得し、演習を通して実際の業務で使用される資料の作成やデザインを行う	1 後	30	○			○	○			
	○	マルチメディア 技術（ベー シック）	CG-ARTS協会の主催するマルチメディア検定（ベーシック）の学習を通して、I T知識の習得を行う	1 後	60	○	△	○	○				

○	○	アルゴリズム 応用	応用的なアルゴリズムとその考え方を学習 する	1 後	30		△	○	○	○								
○	○	特別講座 I	各種検定試験の受験対策を行なう	1 通	480		○		○	○								
○	○	セキュリティ 応用	インターネットにおけるセキュリティの考 え方や具体的な構築方法について学習する	2 前	30		○		○	○								
○	○	ヒューマンイ ンターフェー ス論	マンマシンインターフェースであるヒュー マンインターフェースの理論から具体的な 設計方法について学習する	2 後	30		○	△	○	○								
○	○	J A V A 2	メソッドやファイル入出力などを使った Javaアプリケーションを作成することで、 オブジェクト指向の基本的な概念を学習す る	2 前	30				○	○	○							
○	○	オブジェクト 指向プログラ ミング	Javaアプリケーションの作成を通して、設 計手法やプログラミング技術を実践的に学 習する	2 前	60				○	○	○							
○	○	L i n u x	L i n u x をととして U N I X の特徴を捉 え、その構造と使用法を学習する	2 前	30				○	○	○							
○	○	オラクルSQ L	代表的なデータベースである O r a c l e を使って、データベースの活用法 (SQL) を 学習する	2 前	90		○	△	○	○								
○	○	S Q L 実習	マイクロソフト社のデータベースソフトで ある A C C E S S を使用して、データベー スの設計手法や作成技術を実習し習得する	2 前	90		○	△	○	○								
○	○	A I の活用と 開発手法	人工知能のしくみやその活用法について、 事例や演習・実習をととして基礎知識を学 習する	2 後	30		○		△	○	○							
○	○	A I プログラ ミング基礎	A I プログラミングで使用される P y t h o n の基礎的な文法およびプログラミング 技術を学習し、A I への活用方法を学習す る	2 後	30		○		△	○	○							
○	○	ヒューマンズ スキル	職場や地域社会で多様な人々と仕事をし ていくために必要な基礎的な力とプレゼン 手法をグループ討議を中心とした演習で身に 付ける	2 後	30		△	○	○	○								
○	○	ネットワーク 応用 2	ネットワークの技術知識、スキル、問題解 決能力、技術遂行能力を学習し、C o m p T I A N e t w o r k + の取得を目指す	2 後	120		○	△	○	○								
○	○	W e b アプリ ケーション構 築	サーバ側で動作するプログラムを作成する 技法を学習し、W e b からデータベースを 管理するプログラム技術を学習する	2 後	90		△		○	○	○							

○	実践システム開発演習	システム開発の上流工程（要件定義～設計まで）をグループワーク形式で実践する	3前	30			○	○	○	○				
○	J A V A 応用	J A V A の文法、基礎知識およびプログラミング技術を学習し、Oracle Certified Java Programmer, Bronze SE 7 の取得を目指す	3前	150		○	△	○	○					
○	A I プログラミング	P y t h o n の文法、基礎知識およびプログラミング技術を学習し、A I 等の活用の基礎となるライブラリの使用方法を習得する	3前	90		△		○	○	○				
○	システム構築総合演習	企画書の作成から開発およびテストまでの工程をグループワークにより演習・実習を通して学習する	3前	60		△	○	○	○					
○	テクニカルライティング	エンジニアにとって最低限必要な技術文書を書くための考え方、方法論、整理の仕方を学習する	3前	30		△	○	○	○					
○	ゲーム構築総合演習	ゲーム企画書の作成から開発およびテストまでの工程をグループワークにより演習・実習を通して学習する	3前	90		△	○	○	○					
○	ゲームプログラミングⅣ	ゲームエンジン（Unity）を活用方法を開発を通して学習する。また、2年次に履修したゲームプログラミングⅢを発展させた内容とする	3前	150		△		○	○	○				
○	クリエイター技術（エキスパート）	3次元CGと映像制作に関する専門的な理解と、3次元CG映像の制作に必要な応用知識を習得する	3前	60		○		○	○					
○	CM制作	企画の立案からプレゼンテーションまでの一連のCMデザインについての知識、流れについて学習する。	3後	30		○		○	○					
○	特別講座Ⅲ	各種検定試験の受験対策を行なう	3通	240		○		○	○					
○	卒業研究	履修済みの各種設計・製造技法・各管理システムの知識をもとに、総合的なシステムを構築する	3後	360				○	○	○				
○	就職対策	就職活動支援および社会人となるための人材育成活動の学習や演習を行う	3前	30		○		○	○					
合計			65 科目			単位時間(3360 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	2 0 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。